地域人間発達支援学プログラム　プログラム専門科目

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（基盤科目）		人間発達支援方法論（2 単位） Advanced Studies in Methods of Human Development Promotion	本授業科目では，地域人間発達支援学プログラムの基盤科目として，人間発達支援の方法論について授業を行う。人間発達支援の方法に関する諸問題を人間発達支援諸科学（教育思想史，比較教育，教育哲学）の手法を用いて学修を進める。人間発達支援諸科学の方法論に関する研究論文の批判的検討も行う。人間発達支援の方法に関する諸問題とは，例えば，人間の知的・道徳的・身体的な発達をどのような方法によって相互に連関させるかという問題や，人間の発達における個性・個人差にどのような方法で対応するかという問題，国内外の学力問題，国内外の道徳教育問題，人間の道徳的発達に関して地域社会で生じる諸問題（いじめや体罰，虐待など）にどのように対応するか，といった問題のことである。こうした諸問題に，人間発達支援に関する諸科学を基盤としながら，個人・組織・社会がどの様に向き合うのかの視点と，問題解決のための取組・方法について討議，発表を通じて考究する。
		社会的思考支援論（2 単位） Studies in Supporting Social Development & Social Participation	これまでも社会科教育は，子どもたちや青少年の「社会的思考」の発達・育成や，その場でもある地域(社会)の形成にも深く関わってきた。本授業では，まず，子どもたちや青少年，なかでも就学後の発達段階を中心とした社会認識の発達と支援のあり方について，1950 年代の社会科教育研究において盛んに調査研究が行われた社会認識の発達論的研究をもとに検討していく。そして，小・中学校を中心として行われている「地域学習」の歴史と実践的課題について，「地域教育計画」の実践，コア・カリキュラム連盟・日本生活教育者連盟による実践などの検討を通して考えていく。その上で，近年，小・中学校や高等学校において新たな展開を見せている地域づくりに向けた実践として，「社会参加学習」，「主権者教育」などの事例に学びながら，実践のあり方や今後の方向性について考究していく。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（基盤科目）		生涯発達支援論（2 単位） Studies in Supporting Lifespan Development	発達心理学およびその周辺諸科学に関する研究について，各発達段階の問題と特徴等の議論をもとに，発達段階における子どもから大人（胎児期から老年期）を支援する計画を立案し，発表・討議・検討を重ね，生涯発達心理学の視点から，地域や学校，地域と学校が連携した教育的取り組みに発達心理学の知見が応用できるよう学習を進める。また，生涯発達支援論は，発達をめぐるさまざまな問題をかかえた子どもから大人の支援のために，必要な知見の提供をめざす応用科学と考える。そのため，社会生活や学校教育場面にて発達的な学習や生活支援について適切な指導が行えるよう専門的，発展的知識，特に子どもの社会情緒的発達の様相，ライフサイクルから生じる発達障害について考究する。 生涯にわたる人間の発達において生じる諸問題に関する高度な知識を考察することにより，自らが立案した手法で，今後求められる発達心理学的な研究や実践，および支援が社会や学校現場で可能となるよう目指し、地域や学校を含む社会的視点から生涯発達を支えるモデルを構築する。
		共に生きるかたちの心理学特論（2 単位） Advanced Psychology of Cultured Mind	人はひとりでは生きることができない，ネオテニーとして生まれ落ち，関係を紡ぎながら人として成長する存在である。そこに障害があるとかないとかは関係がない，それぞれがそれぞれの今の時点で持っている力を使って生きる。相互志向的，相互主体的な関係の中で生きあう中で，自分ではない自分（他者）との混淆関係から，自 - 他が分化し，自己という意識が生じる。信頼できる他者との関係は，自分に向けられた声という意味をもたない音の世界を，意味を持つ言葉の世界に変える。このような関係から生み出される人の発達は，障害とかかわりなく共に生きる関係の中で育つ。 人が人と共に生きる中で自分としての個性をもちつつ育つ過程を，できうる限り事例を取り上げて説明し，共に生きあうかたちとしてとらえる理論や方法について対話を深める。 インクルーシブ社会の形成を目指す人と人の生きあうかたちを臨床発達心理学的視点から読み解く。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（基盤科目）		ヘルスプロモーション特論（2 単位） Advanced Studies in Health Promotion	本授業科目では，地域人間発達支援学プログラムの基盤科目として，人々の健康の保持増進のための支援に関する理論や方法を学ぶ。ヘルスプロモーションとは，WHO により「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし，改善することができるようにするプロセス」と定義されており，人々の健康を保持増進するための個人的な技能や能力を高めることと併せて，それを支援する社会的，経済的，政治的な環境を作り出すことが強調されている。本授業では，前半に，ヘルスプロモーションの理念の土台となる，健康の概念，健康と社会の繋がり，国際社会における健康課題への取組，健康教育の考え方などについて理解を深める。中盤には，ヘルスプロモーション活動の実践に向けて理解しておくべき，健康教育に関する教材論・方法論・評価論，保健行動科学の理論やモデルなどについて実践的に理解する。後半は，それまでの学びを踏まえて，受講生が属するフィールドを基盤としたヘルスプロモーション活動を考案し，受講者同士での議論を通じてその可能性を探求する。
		生活環境創造支援論（2 単位） Studies in Supporting Environmental Education for Lining	家族や地域社会の教育力の低下やコミュニティの崩壊は近年とくに指摘されている。少子高齢社会の本格的な到来により，人生 100 年時代の「生活の豊かさ」を実感できる地域づくりが必要となる。このことは，「よりよい生活」を創造する実践力の育成が，家庭や地域支援の実践者には必要不可欠であることを示唆している。生活の基盤となる環境を捉えるために，学際的な知見から生活環境学に関する理解を深め，家政学の主たる各領域における環境の取り扱いについて議論する。同時に，生活を環境学の視点から総合的に捉えることの必要性について，ESD(Education for Sustainable Education)，ESC(Education for Sustainable Consumption)，Biodiversity,SDGs 等の学術的トピックスをとりあげ，環境教育をめぐる議論から検討する。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（基盤科目）		地域アートマネジメント（美術）（2 単位） Regional Art Management in Fine Arts	現在地域に根差した美術展が日本各地で開催されている。近年では作品を展示するだけではなくアーティストによるワークショップの企画や，レジデンス形式による制作現場や制作過程の公開など，運営の方法も多様化している。また，いかに美術展が地域や地域の人々に根差したものとするかが大きな課題となっている。また，地域の美術館やギャラリーといった展示施設での従来型の美術展も数多く開催され，現在でも地域の芸術家や愛好家の活動発表の場として重要な位置を占めている。この授業では，そのような地域に展開する美術展のマネジメントの方法に焦点を当て，地域における美術展の文化的役割について考察する。授業の中で受講者は展覧会の運営に実際に参加し，マネジメントの実態を経験する。それを通し自ら展示案やワークショップ案を企画することで，美術展による文化振興や鑑賞支援のスキルアップを図る。
		地域アートマネジメント（音楽）（2 単位） Regional Art Management in Music	現在，地域密着型の音楽イベント（音楽祭，合唱祭，音楽公演，舞台公演，子供の音楽会等）が地域の文化振興や観光振興，地域コミュニティの再生等，地域社会の発展に大きく寄与している例が多々ある。本授業では，音楽の文化芸術と社会をつなぎ，様々な音楽的公演を実現するために必要な，アートマネジメントについて学ぶ。「人」と「人」をつなぎ，「人」と地域社会をつなぐツールとして，音楽をどのように活用できるかを考察する。そして，音楽制作の現場での活動体験を通して，専門的な技能として，音楽のコンサート，イベントの運営，企画，マーケティング，渉外，広報等のスキルやノウハウなどを習得する。またよりよい公演企画を目指し，自己の鑑賞能力も高める。芸術家と社会をつなぎ，鑑賞者のニーズとプレゼンテーションの方法を学び，公演等を企画制作する能力，舞台関係の施設・設備を運用する能力等，専門的能力を身に付ける。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（応用科目）	○	認知心理的支援論 （2 単位） Studies for Human Support with Cognitive Psychology	人を「支援」する，と一言で言っても，その一連の活動の中には様々な要素が含まれ，それぞれの特徴について理解しておくことが必要です。本授業科目ではまず，認知心理学の知見や理論的枠組みについて概観し，人間発達の理解のために認知心理学的な視点がどのように役立てられるのかについて議論します。それから「支援」とは何か，という点について考え・議論し，支援においてどんな観点が重要かについて学びます。またこうした場面において不可欠な，周りと意見を交換し協働するという活動についても，グループワークを通し模擬的に体験してもらいます。こうした授業を通し，「人の支援」あるいは「地域社会・社会システムの支援」の在り方について検討を行います。またこうした視点が，現在求められている，地域全体での協働を促進する「地域コーディネーター」という人材養成へどうつなげられるか，その可能性と課題点について追及します。
		遊びと感情の社会学特論（2 単位） Advanced Studies in Sociology of Play and Emotion	従来，人の感情は生物としての「ヒト」の問題であり，また個々人の経験の問題として，実験系や臨床系の心理学で扱われることが多かった。しかし近年，感情に関する様々な分野の研究が進み，複合分野としての性格を強めつつある中で，これらの分野の知見の統合が求められている。この授業ではまず，感情社会学の成果について，従来の感情の心理学の考え方と比較対照するようなかたちで学んでいく。特に感情社会学の二つの立場，ケンパーらの実証主義派，ホックシールドらの相互行為論派について説明し，それらをいかに統合していくかをともに考察する。後半は感情の中でも特に「楽しい」「面白い」という感情にスポットをあて，そうした感情を説明する心理学，大脳生理学などの諸理論と感情社会学との関係を学ぶ。特にゴフマンの「遊びの社会学」が，チクセントミハイのフロー理論との補完的関係にあることを中心に考察を進める。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（応用科目）		地域環境システム論（2 単位） Advanced Studies in Environmental Systems and Societies	地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題，居住・都市問題などの解決や，自然災害への備えや対応について，自ら思考・判断できる公民的な資質・能力の育成は，環境共生社会の構築に欠かせない市民力である。本講義をつうじて，地域や学校の様々な教育活動に求められる，生活空間や居住市町村の自然的基盤，人間の活動を介した土地利用や景観の移り変わり，都市型災害の発生メカニズム，水田の多面的機能について深く理解し，人間活動と自然環境の相互作用を地図やＧＩＳを用いて多角的に考察する。また，野外巡検に向けて，中山間地域における水田・山林の管理問題，災害への脆弱性，高齢者の食料調達問題などのトピックに関して，巡検対象地域についての資料収集やディスカッション，必要に応じて自治体職員や農業者に対するヒアリングを行う。
		衣環境学特論（2 単位） Advanced Studies in Clothing Science	１９９０年代から台頭してきた「ファストファッション」は，アパレル産業の構造や価値観を大きく変容させてきた。そこで，地域における生活環境や教育環境を考える視点として「人間が衣服を纏う意味」を切り口に，学際的な知見と地域における事例から理解を深め，衣服をめぐる最新情報はもちろんのこと，伝統的な衣生活を取り入れる視点を教授する。授業では，被服材料学，被服構成学，被服管理学，被服生理学および伝統染織学をベースに，地域の教育現場，市民活動現場，伝統産業現場の事例を通して，21 世紀における人類の共通課題である環境共生社会を実現していくための人・生活・社会のあり方を議論する。また，指導教員が長年研究で携わっている幼児教育，NPO，伝統産業における現場でアクティブラーニングを通して，衣生活の視点から地域を創造する手法や意義について理解を深め，最終的に地域での実践計画を構想することで，実践力を身につける。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（応用科目）		生活経営支援論 （2 単位） Studies in Supporting Living Management	２１世紀の人間社会をとりまく諸課題についてグローバル，ローカルの両視点から深くかつ融合的に考えるために文・理を問わず必要な高度な知的基盤の形成を見据え，生活諸課題に対応するための生活経営を支援する総合的な力を涵養する。生活を経営する環境は，生活をめぐる多様な状況が反映されて，多様で複雑である。それぞれの生活経営課題への支援が喫緊となっている。 具体的には，以下のようなトピックに沿って，グローバル社会と地域の生活に焦点をあて，問題を適確に理解し思考を深めるための導入的講義・演習等を行う。 ○グローバルな課題と国内の諸課題の解決というローカルなガバナンス政策との関係を生活ガバナンスの視点から理解する。 ○現代社会の様々な課題に対する課題解決の方法を理解する。 ○人間の発達・成長を踏まえ，生活経営支援の観点から社会との関係性を理解する手法を理解し身につける。
		消費者教育支援論 （2 単位） Studies in Supporting Consumer Education	２１世紀の人間社会をとりまく諸課題についてグローバル，ローカルの両視点から深くかつ融合的に考えるために文・理を問わず必要な高度な知的基盤の形成を見据え，消費者の生活諸課題に対応するための消費者を支援する総合的な力を涵養する。消費者教育推進法によれば，消費者市民社会の構築が目指されているが，グリーンコンシューマー，エシカルコンシューマー，持続可能な社会，ESD，SDGs などを視野とする国際的な方向での消費者教育支援を考察する。 具体的には，以下のようなトピックに沿って，グローバル社会と地域の生活に焦点をあて，問題を適確に理解し思考を深めるための導入的講義・演習等を行う。 ○グローバルな課題と国内の諸課題の解決というローカルなガバナンス政策との関係を消費者教育の視点から理解する。 ○現代消費社会の様々な課題に対する課題解決の方法を理解する。 ○人間の発達・成長を踏まえ，発達段階に応じた消費者支援の観点から社会との関係性を理解する手法を理解し身につける。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（応用科目）		健康管理支援論 （2 単位） Studies in Supporting Health Administration	我が国の高齢者の割合は総人口の 3 割にも達し超高齢化社会へと進んでいる。死亡死因の上位にある悪性新生物，脳卒中，心筋梗塞などの生活習慣病が大きな問題となっているが，その主要な原因は運動・栄養・休養などの個人の生活習慣の乱れにある。この様な状況の中で，人生 100 年時代をアクティブに生きるためには，健康に対する意識のみならず，職場や行政が市民の健康活動を積極的に推し進める一次予防が重要となる。そのためには，健康増進に向けた正しい知識と科学的根拠に基づいた実践的指導力を身につけることが不可欠である。本講義では健康の保持・増進という面から健康管理の意義を理解し，疾病予防の観点から健康管理の方法を考え，職場や行政で貢献できる能力を身に付けることを目標にスポーツ指導の場面で問題となっている事象について，身体科学や健康科学の立場から解決策について議論を行う。
		身体科学特論（1 単位） Advanced Studies in Human Health Sciences	厚労省は生活習慣病予防を目的として運動・栄養・休養の 3 つの柱を掲げている。その中でも運動実践の効果については高血圧，2 型糖尿病，肥満をはじめ基礎研究から臨床研究にわたり高い評価が得られており，大規模な疫学的調査においても実証されてきた。さらに最近では痴呆症，うつ病などの精神性疾患に対しても薬物と同様の効果が期待できるエビデンスが公表され，運動の効果が注目を集めている。 そこで，本講義では地域の住民を対象に運動を主体とした健康の維持・増進活動を実施する際に必要となる運動の意義・効果について最新の科学的知見を紹介する。 また，地域でのスポーツ指導の場面において問題となっている健康事象やその対応策について身体科学及び健康科学の立場から解説を行う。さらにアンケート調査法や得られたデータの活用・評価法について統計的解析法を交え解説を行う。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（応用科目）		運動発達特論（2 単位） Advanced Studies in Motor Development	近年，子どもの運動能力，社会性，学力，言語力などの低下や，体罰や虐待などの増加から「子どもの育ちの危機」が指摘されている。とくに子どもたちが，未来に希望を持って他の人々や，様々な環境・地域と良好な繋がりを持ちながら，様々な社会問題を解決し，自らの身体や感情を適切に処して逞しく生きていく力を育むことが課題となっている．一方，高齢化が進む中で，加齢にともなって QOL を重視した生き方も重要な問題である。このような背景をもとに，現代の子どもから高齢者までの体力・運動能力の経年的な推移を把握し，その特徴や課題を浮き彫りにし，それらを解決するための方策を探る。また，現代社会の生活の中で問題となっている体育やスポーツについて考え，その原因を明らかにする。本授業では発育発達学の立場からスポーツの果たす役割に基づき，地域での指導現場で活用できる能力や資質を身につける。
		身体運動学演習 （1 単位） Advanced Seminar in Human Movement	体育やスポーツなどの運動の指導場面では，学習者の動きを分析して，適切に評価・診断し，動きを改善するための最良の方法を見つけることが求められる。そのためには，良い動きのモデルを有形無形に関わらず多く蓄積しておくこと，目のつけどころを心得ておくこと，質的分析の能力を高めておくことが必要となる。しかし，実際の運動の評価は，瞬時に行われるため，質的分析だけでは限界が生じる。そのため，動きを観察する目を養い，質的分析能力を高めるとともに，時間や労力はかかるが，動きを量的に分析することも必要となる。本授業では，ビデオカメラなどの ICT を用いた学習機器を利活用しながら，運動の質的評価能力を高めるための方法について学習する。そして，様々な運動やスポーツの指導場面で応用できる資料を作成する。
		スポーツ指導支援論 （1 単位） Advanced Studies on Sports Coaching	生涯スポーツ社会の実現に向けて，国や地方（都道府県・市町村）が進めるスポーツ政策等を理解し，スポーツ指導者の実状と支援体制について概説する。現在，国のスポーツ基本計画に見られるように，スポーツの意義や価値が広く共有され，「新たなスポーツ文化」の確立が多くの都県市等で謳われています。地域においては，それぞれに地域の特性を反映し独自のスポーツ振興策が見直され，「スポーツ振興計画」等として展開されています。しかしながら，近年「働き方改革」が注目される社会において「学校における部活動指導のあり方」や，「地域におけるスポーツ指導とその支援体制」の再構築が求められています。本講義では，国の政策に基づいた地域におけるスポーツ政策を中心課題に，スポーツ指導支援というカテゴリーからその現状を検討し，課題学習を通して考究します。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（応用科目）		生涯身体発達支援論（2 単位） Studies in Supporting Lifelong Physical Development	子どもを取り巻く身体の問題は，運動習慣の低下や体力の二極化などに加え，体力の精神的な要素まで範疇に入れると危機的状況にあるといえる。そのため，地域での身体活動や学校での体育の担う役割は，ますます重要になり，家庭や地域との連携はより一層不可欠になってきている。 本講義では，子どもの身体，子どもを取り巻く環境など，今日的な課題を適切に理解した上で，現在の体力の現状について議論を深めていく。授業では，最新の研究知見に触れながら，受講者自身が生涯スポーツとどのように関わっていくかという視点を探っていくことを試みる。その過程で，体力や身体活動に対する既成概念を問い直し，豊かなスポーツライフを支える知見を得ることを目指す。
		情報コミュニケーション演習（2 単位） Advanced Seminar on Information & Communication	この授業は，情報を適切に扱ったコミュニケーションを通して，地域と協働し，より良い社会生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識・技能を養成し，現代社会に対応できる人間形成を行う事を目的とする。特に，近年の主たる情報源となるネットワークを介したコミュニケーションでは，氾濫する情報の真偽を確かめる批判的な思考，ネットワーク・リテラシー，情報モラルなど多岐にわたる能力が求められる。特に，他者との認識の違いから起こるすれ違いの仕組み，顔の見えない相手とのコミュニケーションに必要な知識・技能，日々進化する情報コミュニケーション・ツールへの対応など現在だけでなく，将来的な社会の変化に対応できる人材育成にも視野に入れた内容を取り扱う。これらの内容を，演習を通して修得することで，知識だけでなく体験を通して実践できる能力を育成する。
		情報科学技術特論（2 単位） Advanced Studies in Information Science & Technology	情報通信社会における人間形成を，情報科学技術の理論に基づき検討する。情報科学技術は，情報モラルや情報リテラシー等の知識基盤を基に情報を数理的，論理的に捉えた情報科学，情報科学の論理的思考を具体化する情報技術を相互に関連付けた考え方である。そのため授業は，情報に関する知識基盤を育成するための講義と課題解決の手順を論理的に設計し，その手順を具体化する演習によって構成し，修得した知識を活用できる実践的な人間形成を目指す。さらに，日本と諸外国における情報通信社会に対する取り組み（プログラミング教育などを含む）を比較検討し，これからの国際社会に対応できる人間形成に必要な要素を情報科学技術の観点から考察する。また，教育の情報化を踏まえた課題解決能力の育成や情報を活用する実践力，情報の科学的な理解，情報社会に参画する態度等の指導も行う。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（応用科目）	○	科学コミュニケーション演習（2 単位） Advanced Seminar on Science Communication	現代社会は科学技術社会であると言われています。また，現在の科学技術はこれからも発展・変化を続けていくことが予想されます。そのため，私たちや次世代がこれからも地域社会においてよりよく発達・成長し，よりよく生きていくためには，自然環境や生活環境における「科学」の在り方を考えていく必要があります。 授業では，まず私たちを取り巻くそうした「科学」について基礎的な内容を確認します。具体的には，生命や地球，物質やエネルギーにまつわる身の周りの科学事象に対する科学的認識の発達・形成，科学的な見方・考え方の育成，そうした認識や見方・考え方を踏まえた科学コミュニケーションの在り方といったトピックについて，文献の輪読などを通して受講者同士で議論しながら考えていきます。その後，地域社会における科学的な問題解決，将来に渡る持続可能な開発等に関わる課題について，先行研究事例等を参照しながら検討していきます。
	○	造形表現支援演習（2 単位） Advanced Seminar on Artistic Expression	児童から高齢者まで一生涯にわたり，美術や工芸を通して人々が生きがいを持ち，より心豊かな生き方を歩む手立てを構築していくことはこれからの社会に大変意義のあることと考える。国内外の文化事業の企画や運営を通し，美術・工芸を活かし人と人，人と地域を繋ぐコミュニケーションをいかに構築するのか造形表現を通して学ぶ授業である。具体的には，美術・工芸の歴史的ムーヴメントを概観し美術・工芸の多彩な表現や，地域社会における美術・工芸に関する活動実践例を調査し，社会との関わりや役割について議論し理解を深める。各自の専門に沿った課題をもとに，地域の芸術祭への協働参加，デザインや表現の提案，ワークショップや交流作品展への企画・立案・実践・参加を通して，世代を超え美術・工芸を体験して学び合う楽しさや喜びを支援できる力や，実際の課題解決に取り組み，多様な価値を理解し，社会に向けた新たな価値を創造する力を養っていく。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（応用科目）		平面表現技法分析論（2 単位） Advanced Studies in Analysis of Drawing & Painting Techniques	美術作品の鑑賞には図像的解釈や図像学に加え，技法面の分析も重要な位置を占める。展覧会に陳列された作品は完成されたものが多数を占め，その制作過程に焦点を当てた例は少ない。作品の背景にある複雑な工程や意匠を知るには，実際に素材を使用した経験や造形的な物の見方が必須となる。 この授業では平面表現（油彩画，日本画，水彩画，素描など）に見られる素材面での構成要素（支持体，地塗り，顔料，媒材など）と描画法（遠近法，陰影法，配色）の関係を図版やサンプル，文献を基に解説し，素材特性の把握が表現を支えている事を示す。それを実感するため，受講者は地域の美術館に展示されている作品の実見調査や文献の精査を経て模写やサンプル制作などを行い，工程を記録する。この授業を通し，受講者には素材と表現の関係性について理解を深め，作品鑑賞能力の発達を促す。ひいては，地域の文化振興を担う人材としての資質向上に繋げる。
		地域デザインプロジェクト（2 単位） Regional Design Project	特定の地域を対象として，自然環境や文化遺産，特産品や空き家などの地域資源に着目し，それを生かすための実践的なデザイン・プロジェクトに取り組むことで，地域にとってのデザインの役割・可能性を探求する。商品・サービスやその広報活動などの経済活動におけるいわゆるコマーシャルな観点と住民のコミュニティや生活環境・福祉などソーシャルな観点の双方から地域を観察・調査し，持続可能な地域社会の創生に資する具体的なテーマを各自設定して取り組んでいく。商品や情報発信のブランディング・デザイン，観光拠点や店舗のリデザインや商店街の空き家のリノベーションデザイン，通りや水辺の景観デザイン，さらに潜在する風景の掘り起こしによる発見のデザインなど，住民とコミュニケーションを取りながら，モノ・こと・場のスタディを進め，図や模型などを制作し，課題に応答するプレゼンテーションを行う。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（応用科目）		舞台芸術分析論 （2 単位） Advanced Studies in Performing Arts	多様な地域の音楽活動を支えるのは音楽経験であり，その経験の積み重ねから得た音楽に対する深い理解が重要である。音楽活動支援は活動全体の運営力はもとより，何よりも芸術作品における美的価値を見出す分析能力を有することが必要である。支援者としての分析能力は活動の主体となる演奏理解をはじめ，その鑑賞方法や楽曲に対する深い知識・理解といった内容が含まれる。それらを総合芸術作品である舞台芸術楽曲の分析を通して，幅広い視点から音楽を捉える能力と結びつけていく。本科目では，音楽に関わる地域支援に欠かせない人材となるために必要な芸術作品の価値創出力を習得すると同時に，音楽を含む総合芸術作品の理解能力を高めることを目標にしている。これらを身につけ，それを有効に活用し多様な地域支援のあり方を実現する能力を身につけておく必要がある。そのため，演奏面と楽曲研究の双方向から作品分析の内容と方法について学ぶ。
		音声デザイン支援論 （2 単位） Studies in Supporting Voice Design	地域の芸術表現活動を通した音楽コミュニティの構成，多様な芸術文化活動の企画や運営に携わるために必要な音楽に関わる資質・能力を習得する。個別実技指導ではヒトの身体発達を踏まえた声の表現技能を伸ばすとともに，様々な芸術表現を支援する力や，課外活動，個人指導，多様な芸術団体での声を使った表現指導を行う力，あるいは情操教育を担う民間教育などでの指導力を含め，音楽を通して豊かな地域社会創生に貢献できる音楽能力を伸ばす。身体を楽器として用い多様な音声の表現体験から生み出される「人間の思考」「生活」「健康」等の観点から「歌うこと」がもたらす「人・ヒト」の「心とからだ」に関する社会システムをデザインする思考力も高める。音楽の専門知識や多面的理解から「地域の人と人をつなぐ」ための企画力や実践力，高度なリーダーシップ，コミュニケーション能力の基盤を習得する。
	○	サウンド・コラボレーション（2 単位） Collaboration of sounds in Music	本授業では，地域社会と音・音楽との関わりを，サウンド・コラボレーションという視点から研究する。豊かな日常を送るために，音・音楽は不可欠である。社会の様々な場面において，音・音楽がどのように連携し活用されているかをまず調査する。商業施設でのＢＧＭ，行事の音楽，展覧会の音楽，ドラマや舞台での効果音等，様々なサウンドによる心理的効果を研究し，分析を行うことで，地域社会において音楽を適切に活用できる高度な能力を持つ人材を育成する。また音楽が与える心理的効果についても，高齢者施設や福祉施設，教育施設，病院，飲食店，商業施設等の多種多様な環境において，実地調査から考察し，人間発達に必要な音・音楽について，現在の課題を分析する。地域社会で音楽を適切に活用できるための実践スキルを身につける。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（応用科目）	○	外国語コミュニケーション演習（2 単位） Seminar on Foreign Language Communication	持続可能で豊かな地域社会の創生を支える新しい課題を解決するためには，多様な人々との共生と協働が必要であり，外国語を使っての情報発信力とコミュニケーション能力が必須となる。本講座では，多様な人々と共生するための外国語の実践的コミュニケーション能力を養う。具体的には、英語による相互文化理解能力の育成を目的とし、国際補助言語としての英語の役割、コミュニケーション能力とはなにか、外国語でのコミュニケーションによる認知技能の育成、第 2 言語習得理論研究からの言語習得研究より言語学習過程においての理解を促す。外国語の学びを通して、異文化を理解する際に、自国の文化や考え方を認識しつつ、自分の視点や考え方についても内省的に考え、相対的視点を持って、差別・偏見にとらわれず、相互的文化交流ができる能力の育成を促す。
		論理表現コミュニケーション演習（2 単位） Seminar on Logical Composition and Communication	論理的な思考や表現は学術的な研究活動に必要不可欠だが，同時に地域生活のコミュニケーションにおいても必要となる。様々な相手や物事・事象に対し，「好き・嫌い」で判断したり感覚的な評価を下したりするだけでは，議論はかみあわず相互理解は成立しない。他者や対象をよく理解し，それに基づきながら自らの考えを形成し表現する方法を身につけることが，研究活動においても，地域の諸課題を解決するためにも，必要な方法となる。 そこで本授業では，研究するために必要な論理表現の技術を修得することを基本としながら，受講生のニーズに応じてより実践的なコミュニケーション技能の修得も視野に入れる。具体的には，読むことのレッスン，要約のレッスン，論証のレッスンなどを演習形式で行う。「読む・書く」の実技を中心に，受講生の表現力や論理的思考力を高める。
プログラム専門科目		地域人間発達支援学特別演習（4 単位） Advanced Seminar in Studies of Community and Human Development	本科目は，研究科共通の「地域創生リテラシー」と本学位プログラムの専門科目の履修によって得られた地域人間発達支援に関する専門知識・技術を基盤として，高度な専門的・学際的思考力と創作力及び実践力を養成するために，学生のテーマに即して地域人間発達に関する先行論文の熟読・批判的検討，統計学的データ解析，フィールド調査設計，作品創作の指導・評価，などを行う。また，修士論文あるいは地域実践プロジェクト（課題研究報告書，及びそれに付随する作品等を含む）の遂行を想定しながら，それに必要な分析手法や資料・データの探索方法・表現技法等を修得し，研究計画の立案・実施能力に結びつける。なお，他分野からの学際的思考力を養成する観点から，他の学位プログラム（コミュニティデザイン学，多文化共生学）の教員が第 2 副指導教員として指導・助言を行う。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目		地域人間発達支援学特別研究（6単位） Advanced Research for Thesis in Studies of Community and Human Development	「地域人間発達支援学特別研究」は，高度な専門知識・技術と実践力及び研究力を養成する集大成として，修士論文の作成に向けた研究授業を行う。地域人間発達支援学プログラムを専攻する学生の研究テーマは，心理学，生活科学，社会学，環境学，身体科学，保健学，芸術学ほか広範囲に渡るため，授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。人間発達支援に関する地域社会の実態と課題の把握を基盤にして，予備考察と関連論文の整理等から研究課題・テーマを設定する。この研究テーマに即して，フィールド調査・分析，関連統計分析，作品の創作，を行う。学生の研究発表とディスカッション，及び指導教員の指導・助言を通して，修士論文への取り纏めを行う。また，高度専門職業人・研究者として必要な倫理教育も行う。なお，他分野からの学際的思考力を養成する観点から，他の学位プログラム（コミュニティデザイン学，多文化共生学）の教員が第2副指導教員として指導・助言を行う。更に，研究室単位ではなくプログラム全体で1年次に中間発表会（研究計画，予備考察，試作品等）を行い，2年次に中間発表会（中間纏め等）と最終発表会を実施する。
		地域人間発達支援学実践プロジェクト （6単位） Non-thesis Research Project in Community and Human Development	本科目は，修士論文を課さないコースワークを選択する学生が受講し，NPO，生活環境学および衣生活，工芸美術，音楽などの地域生活の中における課題解決と結びつく実践的活動，あるいは実践知の解明をコースの専門教員が掲げる特定課題に沿って実施する。研究を進めるにあたって，実践プロジェクト研究を実施する際に必要となる研究倫理に関する教育を徹底する。 コースワークを希望する学生は入学時点で，主指導の教員が提示する特定課題に沿って，自らの2年間のプロジェクト計画を提示することが求められる。プロジェクト計画の作成とその実施，修正必要箇所の確認と方針の更新を繰り返し，1年次前期の間にプロジェクト計画を確定させる。主に1年次後期～2年次前期にかけてプロジェクトを実施し，2年後期に実施したプロジェクトの成果についての検証を行う．プロジェクトの実施や成果の検証に必要な文献検討を通じて，成果に結びつくプロジェクトを立案・実施する能力を養う。 また，学生は，プロジェクトを通じて遂行された地域の課題解決と結びつく実践的活動とその成果を，付随する作品等を含め課題研究報告書(活動報告書)としてまとめ上げる。具体的には，当該実践的活動の先行研究・プロセスなどを説明した上で，活動内容とその分析・考察などを詳述し，結論づける。以上の作業を担当教員の指導の下に実施する。